

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年8月26日（木）午後2時00分～3時35分
場 所 結とぴあ 3階305号室
出席者 教職員 130名
教育長、教育総務課長、学校教育審議監、教育総務課職員5名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 再編計画の中に、再編された時の教員の人事把握については一切記述がない。令和6年に開成中学校と上庄中学校が再編されると、単純に4クラスだと4人ほど、陽明中学校と尚徳中学校と和泉中学校が再編すると17人ほどの教員の必要数が減ってしまうことになる。各学校に1人程度しか配置できないような養護の先生や事務の先生、施設管理員等、そのほかにも再編した場合は、各年代の教員をバランスよく配置することが必要になると思うので、若い先生方を入れなければいけないということも考慮すると、かなり人間が大野市外へ出て行かなければいけないということになる。その辺のことについて、明確な回答がないまま、この数年間、大野の子どものために仕事をしろと言われても、必ずその数年後には大野の地を勤務地として離れなければいけない人が出てくる。それに関して何の資料もないまま、あと数年間私たちがどうやって仕事をするのかといったことに関しては、どのようにお考えか教えていただけないか。

市教委 心配はご最もだと思う。まず学校数が減れば、間違いなく減るのは管理職である。校長、教頭、それと今おっしゃられた養護教諭、事務職員、これは学校数に応じて配置されているので、その数は確実に減る。ただ、教員については、例えば、資料の11ページで開成中学校、上庄中学校、尚徳中学校は今1クラス分の教員が配置されている。県の配置基準に従って、学級数分だけではなく、プラス1. 何倍で配置されている。それが、例えば開成中学校と上庄中学校が統合になれば、その上庄中学校の減ったクラスが開成中学校で増えるということで、教員の大幅な減少というのではない。そして、ここにいる大野市の皆さんの中には、他市からの教員もいる。そして逆に、他市に勤めている大野市の教員もいる。そういったところをまずは令和6年度の見通しを持ちながら、教員配置を考えていく必要があると思っている。単純に人数だけで考えていくものではないので、そういった意味でこのように資料としてあげていないということである。

参加者 資料の中にそのようなものが入っていないことに関しては理解した。学校再編

計画は子どものこともあると思うが、子どもに尽くしている我々のこともあるので、今おっしゃったようなことで私は十分納得できたが、それを議題の一番最初の方にお示しいただくと、その後の流れも素直に頭の中に入ってきたかなというふうに思うので、その点を今後もよろしくお願ひしたい。

市教委 おっしゃる通りである。ただ、この再編計画案は、まずは子どもたちの教育環境を整えるということが第一である。まずは地域住民の人や、児童生徒の保護者、未就学児の保護者の説明会を開催した。そしてそれだけでは教員も不安だということで、こうやって教員の説明会をし、不安なことに関してお答えをさせていただく。ご理解いただけたらと思う。

参加者 先ほどまずは子供のことからというふうにおっしゃっていたが、複式を抱えている学校の状況から少しお話ししたいと思う。再編の目的が複式を解消することとおっしゃっていた。再編するまでの5年間というのはその複式が残ったままになると思うが、体制は変わらないのか。緩和していく何か手立てがあるのか知りたい。

市教委 実は、保護者の方からも急いでくれというようなご意見もあった。中学校が令和6年度ならば、令和8年度まで待たずにというご意見もあった。ただ、先ほど説明があったが、再編による混乱や保護者の不安を解消しなくてははいけない。

そのためには、やはり小中学校別々にということと、一昨年度の意見交換会の中で、小学校の再編と中学校の再編は別物だというご意見もあった。そして、中学校の再編を急ぐべきだろうと意見交換会や昨年度の検討委員会で意見があった。

そういったことで、中学校の方が先ということになっているわけだが、複式で授業されることについて、非常にご苦労されてるというようなことは承知している。それが今解消されるかどうかは、なかなか難しい問題だが、今の小山小学校にも配置しているように県の複式緩和など、引き続き要望を出していく。今ある複式の形で子どもたちがしっかり学べるようにしていただいているが、これから変わってくるのはタブレットの活用である。力を貸していただけたらと思う。

市教委 下庄小学校と乾側小学校、その前だと蕨生小学校と富田小学校、そして森目小学校の再編、六呂師小学校の再編を経験している方もいると思うが、実際に経験した場合にどのようにお考えになっていたのかということや、子どもの様子や保護者の思いというのを共有できたらありがたいと思うがいかがか。

参加者 乾側小学校と下庄小学校が今年再編となった。吸収合併ではない、対等の統合だということを、ずっと教育委員会もそれぞれの地域にも説明をされて、そういう理解の中で統合を進めるような形で来たとし、両校ともそういう意識でい

た。以前の統廃合のような大げさな扱いにせず、どちらかという、難しい話にしないような形で進んできたように思う。

学校の方もそれぞれで、何が必要かというようなことを管理職中心に話もしてきた。さほど大きな違いのあるようなことをそれぞれの学校でできていないので、小学校の目指すところをよく理解して、交流も進めてきた。教育委員会がいろんな地域への説明会等で丁寧な対応をされたからだと思うが、それぞれの保護者や地域の方から、難しいような要求等が学校に、統合前も統合後にも入ってくるようなこともなかった。

余りにも規模の差があったので、少し心配はしていたが、子どもたちの様子を見ている限りは、校長の私が細かいところまで見えてないのかもしれないが、乾側の子たちにとって、本当に良い統合だったように学校生活を見ている限り思うし、保護者の方もそのように思ってくださっていると、信じているような状況である。

それぞれのPTA同士で難しい議論をしようとか、そんなことを考えるのではなくて、小学校が小学生を育てたいという思いは、さほど変わるものではないので、安心して統合できるということを、保護者が子どもたちにずっと語っていったり、交流等もスムーズにしたりしていくことで、自然と統合ができるような気がする。今年の様子を見てる限り、私はそんな実感を思っている。

市教委 乾側地区にスクールバスが通っている。そこに教育委員会の誰かが月に1回は乗ることにしている。乾側小学校と下庄小学校については、この4月1日から始まったが、それで終わりではない。乾側の子たちにとっては、4月1日が始まりなのだと私は思っている。やはり下庄小学校に行ってもよかったなと思えるように、ずっとこの子たちにちゃんと見ているよというメッセージを送り続けていかないといけないと教育委員会として思っている。生活する中で乾側の子たちも、保護者の方も良かったなと思ってくれているようでありがたいと思って聞かせていただいた。

参加者 陽明中学校、開成中学校の両方とも勤務していたが、校舎の状況などを考えた場合に、陽明中学校の方がかなり老朽化している。トイレ一つとっても、開成中学校との環境が違う。教室も1階に普通教室が4つ配置できないなどの状況になっているが、そういうことについてはどのようにお考えなのか。3年後に2校になるということで、なるべく教育環境を両校とも同じような状況にしてもらいたいと思うが、そういう点についてはどのようにお考えか。

市教委 学校施設の老朽化の問題だが、まず学校の躯体、骨組み的なものは、昨年度一通り各学校を調査した。今回、再編でその校舎を活用するとさせていただいている学校については、まだ当面は使えると考えている。ただ、その骨組みの部分以外の、例えば外壁や屋根の部分、内装、電気設備、給排水設備について

は、やはりかなり老朽化している学校があるので、こういったものについては、まず再編の児童生徒を受入れる側の学校を中心に、優先的に改修作業をしていく必要があると考えている。これからいろんな調査もさせていただいて、こういったところを優先的にしなければいけないか十分調べさせていただき、児童生徒が安全に過ごせるように、改修工事は責任を持ってさせていただきたいと考えている。

参加者 言いたいことは分かるが、要するに教室配置の問題やトイレの問題など教育環境について教員側の意見を聞いてやってもらえればと思っているのでよろしくお願ひしたい。

市教委 今申し上げたように(案)が取れば、計画的にきちんと改修や整備はしていくので、安心していただきたい。ただ、教室配置がきちっとできるように、鉄骨をばらして、大規模な長寿命化というような改修までするかというと、そこまではできない。それをやるのだったら、新築ということになる。今、全国的にも財政的に非常に厳しい状況で、いろんなことを勘案した上で、このような案になってる。皆さんのご意見も伺いながらしっかり進めていきたい。

参加者 再編の準備委員会のことについて、少しお願ひがある。来年度から再編の準備委員会がそれぞれの地区で行われると思うが、ぜひ、今の小学生が中学校に行ってから再編のため、小学校の関係者もその中に入れていただきながら、一緒に協議して進めていっていただくとありがたいと思った。例えば小学校のPTAの関係や小学校の職員など。そうすることで、安心して中学校に子どもたちを送ることができるし、小学校の保護者や、地域の方も安心して再編について理解を得ることができるのではないかなと思うので、よろしくお願ひしたい。

市教委 3ページの説明にもあったが、3ページの一番下の「慎重に丁寧に」の2段落目の「保護者や地域の合意形成や不安の解消とともに、希望と期待が膨らむ環境づくりに向け」のところが、今おっしゃったことはまさしくそれだと思う。各学校区単位に回らせていただくと、受入れる側もこういう風に受け入れたいとか、温かい気持ちで受け入れたいなどの意見や、再編の当事者の学校も、こんなことをすると、子どもたちが喜んで行けるんじゃないかというような意見も出ている。中学校の準備委員会の際には、その中に小学校関係者をというのも本当にありがたいご意見だと思う。そういった教職員の目から見たご意見を、我々も参考にして、この資料にある「希望と期待が膨らむ環境づくり」を整備していきたいと考えている。

参加者 先ほど話があったが、乾側地区の小学生9名が今、下庄小学校でお世話になっている。保護者とここ数ヶ月間、間に何人もの方とお会いしたが、話で出てくるのは、本当に喜んで学校に行っている、良かったということをおっしゃっ

ていた。私もそれを聞くたびに、良かったなと思い、本当にありがたく思っている。

一般論として、再編、統合ということについて少し言いたいのだが、開成中学校ができた時は、有終中学校の南半分と小山中学校とが統合して開成中学校となり、陽明中学校は、下庄中学校と乾側中学校と有終中学校の北半分が統合し、校舎も新しく建ててできた。それと同じような形で、今開成中学校と上庄中学校が統合するとなると、校区が新しくなって新しい学校ができる。でも、既存の開成中学校の校舎を使って、上庄中学校の生徒はそこへ行くことになる。何が言いたいかというと、人数に違いはあるけれども、二つの学校が統合して、新しい学校ができる。小浜で言えば、4校の小学校が統合して三郷小学校ができています。そのような形で皆さんが考えていただくとありがたいかなと思う。それは現場で働いている教職員の考え方というものになると思うが、この会の最初の方に出てきた言葉で、吸収合併ではないということがあったが、複数の学校が統合して新しい学校ができるんだという考えを皆さんが持っていただくとありがたい。

市教委 私は各校区の説明会で、開成中学校であれば、新生開成中学校であって欲しいと、陽明中学校も新生陽明中学校であって欲しいと、小学校も一緒だがそんな風に申し上げている。

有終南小学校の説明会に行った時に、PTAの方がこんな風に言っていた。小山小学校の子たちが来ることによって、新しい有終南小学校の文化を作りたいたいと、小山小学校の子たちがやってきた行事であったり、考え方であったりというのをぜひ、有終南小学校でも取り入れたいと、そんな風におっしゃっていた。受け入れてくれるところがそのようにおっしゃってくれているのは、本当にありがたいなと思った。ライブを見ていた小山の人たちは本当に喜んでいたと思う。

学校の名前という話もあるが、50年前に大野市は、地域色をなくして、開成、陽明、尚徳ができた。学校名にそれぞれ意味があり、目指す教育感を表現してる。10年20年後に、もし再編をするとなると、これは大野の最終的なものになるかなと、そういう時にはしっかり考えなければいけないだろうと思っている。

新生はどういうところで表現できるのだろうか。例えば、体操服など。開成中学校の青と上庄中学校の黄色が何かの形でデザイン化されるとか、陽明中学校のえんじ色に2校の何らかのメッセージが入るとか、目に見える表現の仕方がかと思う。もちろん目指す学校像などもあるだろう。

そして皆さん、学生服はどうしましょうか。このまま詰襟とセーラー服でいくか。どう思われるか。このように大きく大野が動くときに、いろんなことを

考えたい。そのために皆さんに来ていただいて、知恵を貸してほしい、一緒に頑張りたいとそういう風に申し上げている。制服なども一つの検討項目になるのではないか。そうなると、新生開成、新生陽明に留まらず、新生大野になるのではないか。そこまでいろんなことを考えると、難しいことがいっぱいあるが、結構楽しいのではないか、そんな風に思って話を聞いていた。

市教委 皆さん、なかなか全体の前では言い辛いということもあると思う。前後、或いは隣に3、4人いらっしやると思うので、そこで我々の説明や今のやりとりを聞いてどんな思いをそれぞれ持たれたのかということを少し意見交換していただけるとありがたいと思うが、いかがか。4、5分お願いする。

参加者 (数人で話し合い)

市教委 こんな話が出た、こんなことも気が付いたなど、2、3報告してもらえないだろうか。

参加者 統合の仕方に、3年間かけて順次新入生から統合するという方法と、一度に3学年統合するという方法の両方があると思う。今回は、中学校の3学年が一度に統合するという方法になっているが、そちらを取った決め手というのを教えていただけると、今後準備委員会などで、保護者の代表の地区の方やPTAの方から質問が出たときに答えやすいと思うので、お答えいただけるとありがたい。

市教委 1年ごとに再編していくというのは、よく高校で募集停止するというあのような感じであろうか。その二つを比較して検討委員会などで議論したことはない。私としては、例えばA校とB校が統合し、A校がB校に動かなければいけないという時に、私は最後まできちっとA校のアイデンティティを保ち、伝統を作って終わらせてあげたいと思っている。1学年ずつ歯抜けになって、最後少人数で終わるということは、私はさせたくない。

逆にこのようなこともあった。あと2、3年後に再編が決まっていて、例えば小学校3年生で再編するなら、1年生からでも入学することはできないかという意見もあった。しかし、私はその時にきっぱりお断りした。というのは、あの子が行った、この子が行かないなど保護者が変に不安を持つのも良くないだろうということだ。教育委員会の考え方をしっかり言わせていただいた。

参加者 先ほど下庄小学校で乾側の子は、本当に良かったと思っていると申し上げたが、それは下庄小学校の教員が子どもたちのことや乾側のことを考え、制服だけではない小さな問題にも全部考えてくれているからである。再編の学校になった教員の皆さんはぜひ、2校または3校の地区のことや児童のこと、生徒のことを考えて、本当に忘れないで心で接するべきかなと思う。そういうところでカバーできて、今うまいことしているのかなと思う。

それと統合にあたって、乾側小学校の教員を下庄に異動していただいた。前

年度の計画をもとに、行事などを考えると、もともとの下庄小学校の計画でいってしまっていて、乾側のことや乾側の地区のこと忘れていたと思うときに、同じ学校から来た教員が言ってくれたり、校長からその視点を与えられたり、みんなでカバーし合える。地区として痛みを見てきているので、ぜひ今度の再編の時には、その痛みを見てきた教員も統合先に置くべきだと思う。

二つ目は、もっと大きな目で、学校はその辺の大人たちが働く会社に比べたら箱がすごく古臭いと思わないか。昔から同じ直方体の形だ。本当は長い目で見て、大きな統合再編を考えるなら、箱も形を変えるなど大胆なことができたら良いと本当は私も思っている。

市教委 今おっしゃったように、再編を受入れる学校には少なくとも1人以上の再編される側の教員を異動したいと考えているし、県の教育委員会にも加配については、強く要望しているところである。そして、再編することによって何が起るかということ、新生の学校ということもあるが、地区も大きく再編される。今までの学校教育の幅が広がってくる。

ただ、それを全部学校で受入れることは大変なことである。今、我々が考えていることの一つに公民館機能の強化ということで、そういった地域と学校との結びつきを強化しながら、学校だけじゃなくて広がった地域全体で子どもたちを育てていくというようなことができると良いのではないかなと思う。

参加者 富田小学校は、過去2回統合が行われた。その時に私は教諭としてその場にいたので、先ほどからその頃の様子を少し思い起こしてみた。やはり地域性というのが大きかったなという風に感じる。

森目小学校との統合の時には、スムーズな統合だったという印象が残っている。蕨生小学校は、蕨生の地域の方の熱い思いがあり、PTAの会則を皆で直そうという会議を何度も何度も夜に行われていたことを思い出される。管理職と地域の人達も集めての会議だったと思うので、その頃の苦勞のことは、私は存じ上げないが、端から見てもそのような印象を受けた。

そして何が一番難しかったかなと思ったのは、そのPTAのことと、それから地域の特徴のある活動である。蕨生だったら里神楽があるし、森目は森目太鼓というのがあって、それを富田小学校でどのように生かしていくかというのは、それぞれの思いがあったので、時間をかけて心を溶かしていったのかなという思いがある。

今はそこから随分時間も経ったし、こういった丁寧な再編の説明会もあるので、保護者や地域の皆様も感覚が変わってはきていると思うが、そういうところでの難しさがあったかなと思われた。

尚徳中学校は陽明中学校との統合が控えている。今の富田小学校の6年生の保護者は自分ごととなった。早速もう入学の時から陽明に行きたいとか、中学

校だけでも、一緒にやりたいなどの意見があった。それは中学校3年生の時に統合された場合に、一番集大成となる3年生で行って交流活動が続いていたとしても、やはりお客さんになってしまうのではないかという心配があるのだと思う。

この資料の中にもそういったことの回答が書かれていたが、実際自分ごとになった学年の家の方は、これからますますこんな風に、最初から再編の中学校に行きたいと言われる人が増えてくると思う。学校側はそれを相談されても、何と答えたら良いのかと6年の担任とも考えているところである。情報共有と感想を述べさせていただいた。

市教委

そういう過去の経験というのは非常に大きいと思うので、どうか大事に胸に秘めてお願いしたいと思う。50年前開成中学校ができた。私は開成中学校の第二期生である。有終中学校の開成教場に中学3年生で行った。9クラスあった。私たちは小山中学校から20人で行った。でも、大きい学校は抱擁力があるなと思った。非常にやわらかく、大切に受け入れてくれて、今でも彼らには感謝している。何枚かの写真のようにしか思い出せないが、その時、緊張した気持ちや嬉しい気持ちがいろいろあった。それをしっかり胸に置いて、この仕事に取り組んでいる。

それから2点目の6年生の保護者の方々、子どもたちは当事者になる。12月か1月に、この計画の(案)が取れてきちっとした計画になったら、今の6年生の子たちや保護者に、中学3年生になる時に再編になるということを、教育委員会として説明に行く。子どもたちについては、皆さんにお世話になるかもしれないけれども、陽明中学校に入ってくる下庄小学校の6年生や有終東小学校の6年生、開成中学校も上庄中学校も同じだが、そちらにも教育委員会として、個別に説明に行く。大きい計画は進むが、個別にきちんと対応をする。その時にいろんなご意見をお伺いしたり、心配事をお伺いしたり、そして一緒に考えるべきところは考える。そんな風な会にしたいと思う。学校に答えてくれ、対応してくれなど、1割くらいはあると思うが、それをお任せするということはない。すべてこちらで責任を持って行う。力を貸してほしい。

参加者

私は今年福井市から来た。こういう経験はないが、やはり学校教育というのは同じで、統合になってもやはり目指すところは一緒なのかなという風に思った。

それから、先ほど制服のことを言われたが、私は社中学校から来た。至民中学校が大きくなりすぎて、分かれて新しく社中学校を作った。その時に制服をブレザーにした。そうすると、今LGBTなどいろんな問題があるが、そういう子たちが、ブレザーでスカートを履く子、ブレザーでズボン履く女の子、そして男の子はブレザーでズボンというような制服の着方もできている。もしこ

ういうときに、何かそういう新しい視点でこれからの時代に合わせることもあると思うので、これも一つ考えていただきたいと思う。

市教委 いろんところで、「当たり前を見直そう」ということを申し上げている。私は学校訪問に行くと、何々先生とか、誰々先生と言わないで、誰々さんと言えば良いのではないかと、先生方って言わず、皆さんと言えば良いのではないかと市教委職員に言っている。先生と呼び合っているのは、学校の中かどこかの業界だけである。それが悪いとは言わないが、それで良いのかと。子どもの前で先生と言っても良いかもしれないが、同僚の間ではそれは言わなくても良いのではないかと、ずっと前から思っていて自分ではそうしてきた。

制服もずっと昔のままきいているのでそれが普通かなと思うが違う。海外にしばらく居て、日本へ帰ってくると何に違和感があるかということ、皆が真っ黒の髪の毛、真っ黒の瞳、そして学生服にセーラー服である。それが良い悪いではないが、未来に向かったら、もっといろんな発想があって良いのではないかとこの機会に考えられると良い。

参加者 以前、蕨生小学校に4年間勤めていた。蕨生の子たちと一緒に富田小学校に行き、その子達を卒業まで見守った。先ほど言っていた通り、心も含めて環境が整えば、子どもたちは、次の環境にすごく早く順応する。それはすごく富田小学校で感じていた。そして審議監が希望と期待という風におっしゃっていたが、私も統廃合のときに子どもたちに希望と期待を持たせて行かせたつもりである。それは現実のものとなった。

里神楽も、蕨生の子たちだけでは存続が難しい状態だったが、富田小学校の子たちが興味を持ってきて、蕨生の子たちと一緒に里神楽にも取り組んでくれて、それがいつの間にかやりたいと富田の子たちがたくさん増えた。そして、蕨生の埴安姫神社に訪問した時に、地域の方たちも、富田の子たちが来てくれて良かったとおっしゃってくださった。統廃合をマイナスのイメージでとらえたくない。すべて子どもたちのプラスに繋がっていると思って私たちは、日々活動しないといけないと風に思っている。

ただ、統廃合までの日は、子どもたちはすごく不安だったと思うし、地域の方達もすごく不安を口になさることが多かった。もちろん、私たちも統廃合される時、どうなるんだろうとは、日々不安に思いながら、教育活動を送っていた。不安はないほうが良いなと思う。

方針を示してくださるのなら、早い方がありがたい。こちらとしても、それをしっかりかみ砕き、理解をして、それを前向きな形で子どもたちに伝えることができると思うし、そのためにはお互いに話し合っ、しっかりとお互いの気持ち、思いを知り合い、お互いに理解し合う必要があると思う。そこをしっかりと子どもたちに噛み砕き、前向きな言葉にして伝えていくことが私たちが

できることかと思っている。前向きにとらえて、これからの教育活動を続けていきたいと思う。

市教委 方針などいろんなことを早めにとすることは、我々の基本姿勢である。この3年間すべての検討過程を公開してきた。100%である。市民の皆さんの中に、この再編案に対して反対か賛成かという議論はもう終わっているという風に思った。いろんなところで議論または協議、話し合いがされたのだと思う。今後もこのように見える形を市民の方に自分たちの姿勢として、徹底していく。

そして、皆さんの意見も十分聞きながら、良い方向に進めていきたいと思う。力と知恵を貸していただきたい。もう来年から中学校はその準備に入らなければならない。よろしく願いしたい。

④閉会のあいさつ（審議監）